

イネ科 マコモ属

マコモ (真菰)

Zizania latifolia (Griseb.) Turcz. ex Stapf

自生環境

水路、池、湿地 など

原産地

日本在来

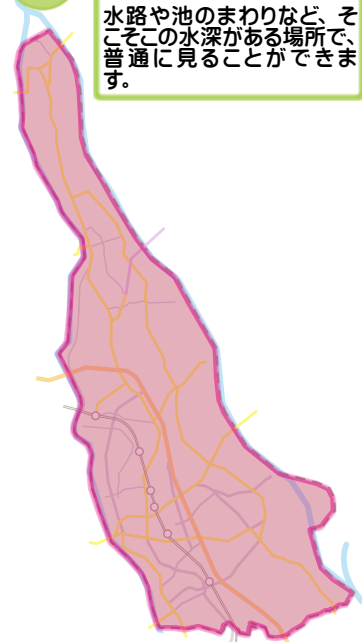
生育を脅かす要因

(今のところ特になし)

市内全域にごく普通で、今のところ絶滅の心配はありません。しかし目の敵にしすぎるのは考えもの。地域に育つ野の花として、やさしく見守る気持ちを大切にしたいところです。

市内の分布状況

水路や池のまわりなど、そこそこの水深がある場所で、普通に見ることができません。



特徴

- ☆ 水辺に群生する多年草です。そこそこの水深（数十 cm 程度）があるような場所で水につかるようにして生えています。とても大きな草で、草丈は 2m にも達することがあります。泥の中に地下茎を長く張り巡らせて旺盛に繁茂しますが、水生生物にとって大切な生活の場となっています。
- ☆ 夏から秋にかけ、50cm にもなる大きな花の穂をつけます。雌雄同株ですが、雄花と雌花に分かれます。穂の下部には雄花の穂が、上部には雌花の穂がつきます。
- ☆ コモ（藨・菰）とも呼ばれ、古くから人々の生活の中で活用されてきた草のひとつです。万葉集や日本書記などの古典文学作品にもたびたび登場します。刈り取った葉でむしろを編んだり、タネを米や麦に混ぜて食べたりしたと言います。

マコモタケの正体

中華料理に使われるマコモタケ。真っ白でやわらかく、淡泊な味が魅力の野菜です。これは、マコモに黒穂菌と呼ばれる菌類の一種が感染した結果、茎や新芽が膨らんだものです。日本に自生するマコモにはできにくいのですが、栽培種のヒロハマコモと呼ばれる系統は、黒穂菌がよく感染し、マコモタケができます。なお黒穂菌の胞子は真っ黒で、古くは眉墨や顔料などに使われました。



水辺でよく茂って、生きものたちのすみかになる



雌花

上のほうでしゅっとのびているのが雌花の穂

雄花

下のほうに雄花の穂。雄花は紫色で雄しべが風で揺れる



園芸品種

ヒロハマコモ

マコモタケが採れる栽培種

穂は出ないことが多い

新芽に黒穂菌が感染しやすい。感染すると膨らみ、マコモタケになる



わびちゃんねる 千葉県野田市の植物を動画で紹介!

<https://www.youtube.com/channel/UCJvrXBJegnWATWd-UZsNzCA>

